

平成25年2月12日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長

中島 正愛

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. **職 種**： 教授
2. **募集人員**： 1名
3. **勤務場所**： 大気・水研究グループ 流域災害研究センター 都市耐水研究領域
(所在地：宇治市五ヶ庄)
4. **職務内容**：
水工学、構造工学および地盤工学などの知見を融合して、洪水、高潮、豪雨、津波や地震がもたらす都市域特有の災害の防止・軽減に資する研究を、極端気象現象や巨大地震・津波についても考慮しながら、数値解析や防災研究所の施設を使った実験などによって推進する。また、京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻の教育を担当する予定である。
5. **資格等**： 博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **採用予定年月日**： 平成25年10月1日（または、それ以降できるだけ早い時期）
7. **任 期**： なし
8. **勤務形態**： 専門業務型裁量労働制（週38時間45分相当、1日7時間45分相当）
休日：土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日及び夏季休業日
9. **給与・手当等**： 本学支給基準に基づき支給
10. **社会保険**： 文部科学省共済組合、雇用保険及び労災保険に加入
11. **応募方法**： 次の(1)～(6)各一式

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに分けしたもの）
- (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
- (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
- (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと）
- (6) 推薦書（または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先）

1 2. **書類提出先：**

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
流域災害研究センター 都市耐水研究領域 教授候補者選考委員会 宛
（封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書き、郵送の場合には書留にすること）

1 3. **応募締切：** 平成25年5月10日（金）【必着】

1 4. **選考方法：** 書類選考のうえ、必要に応じて面接を行います。面接等の詳細は、別途連絡します。

1 5. **問い合わせ先：**

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
流域災害研究センター 都市耐水研究領域 教授候補者選考委員会 宛
e-mail:apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp
（封書あるいは電子メールに限る）

1 6. **その他：**

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

流域災害研究センターの概要

1. 研究目的及び研究内容の概要

当センターは、流域の視点にたった災害の予測・防止・軽減に関する研究を、実験や観測を含めて行うことを目的としています。あわせて、学内外の研究者との共同研究の積極的な展開を図っています。本センターにおける研究活動の特色のひとつは、宇治川オープンラボラトリーおよび4つの現地観測施設（穂高、大瀧、白浜、潮岬）を共同利用研究の場として広く開放し、大気・水研究グループとの連携のもと、学際的な実証研究を進めていることにあります。もう一つの大きな特色は、山地から沿岸域に至る水・土砂・物質の輸送過程を流域一貫の視点から統一的にとらえることができる、5つの研究領域体制を整えていることです。これにより、大気、水、土砂等の不均衡によって生じる流域・沿岸域での様々な災害過程を、観測、実験、理論およびモデル解析の連携より明らかにするとともに、それら災害の予知・予測；軽減に結びつく先導的な研究を推進しています。

流砂災害研究領域

流域の土砂生産流出現象を個々の現象としてだけでなく、流砂系全体の現象として捉え、流域一貫した土砂動態の解明と予測手法の開発を推進しています。また、地球温暖化が流域の土砂動態に及ぼす影響についても検討しています。さらに、河川生態系と土砂移動現象との関係についても焦点を当てて研究を進めています。このような研究を通して、山地、河川、海岸、都市における様々な流砂災害の防止軽減策の開発、流砂系全体を通して治水と環境の両面に関して適切な土砂環境を創造する手法および土砂移動を制御する手法の開発を行うとともに、長期的に見た流域の土砂環境の変化などについて検討しています。

都市耐水研究領域

大都市を含む都市流域を主な対象として、洪水、高潮、豪雨、津波、地震、あるいはそれらの重畳による都市水害の発生機構を解明するとともに、大規模な地下街や地下鉄網に代表される高度に多層化した都市構造、ヒートアイランド現象などの都市環境の変化が水災害に及ぼす影響を考察しています。また、構造工学や地盤工学の視点から、これらの外力に耐えうる都市を構築するための技術につながる研究、さらに、避難や救助も含めた都市水害の防止・軽減策の立案と評価など、都市の防災・減災システムの研究も推進しています。

河川防災システム研究領域

河川防災システム研究領域では、河川の上流から河口域まで流域一貫した防災システムの構築を目指して、豪雨による河川災害や土砂災害などの被害の防止軽減に関する研究を、河川生態環境や景観等、好ましい河川の保全・再生・創成に関する研究とともに進めています。また、地震・地すべり・津波・高潮などと複合・連鎖的に発生する河川災害への対策やリアルタイムの河川防災に関する情報を収集・発信し、災害を防止軽減するシステムの構築に関する研究も行っています。さらに、災害の調査、洪水と土砂移動等の観測を行い、基礎的な実験や水理模型実験・数値シミュレーションをこれらと結びつけて行うことにより、河川災害や土砂災害の発生機構の解明に努めています。

沿岸域土砂環境研究領域

流砂系の一翼を担う河口域および浅海沿岸域の土砂動態を的確に評価し、多様な生態系と調和した親水空間の安全性確保の方策を考究するために、水面変動や浸透流による未固結堆積物の不安定化、侵食、重力流れ、異状堆積等の災害過程をはじめ、干潟や塩性湿地等の水際地形の形成過程、粒状媒質による消波・貯留機能および海底境界過程の研究を行っています。

流域圏観測研究領域

気象・流域水象・海象をシステムとして捉えるための大気・陸面・海洋の相互作用の重点観測研究と継続観測とを実施しています。これらの観測事実に基づき、流域・海岸域における流体災害の発生機構の実現象を究明するとともに、災害外力、災害環境を記述する新たな数理モデルを展開し、流体災害を予測するための数値解析システムを構築しています。研究の中期目標としては、気象海象フィールドステーションによる台風・高潮・集中豪雨予測のための大気・流域・海洋結合モデルの構築と適用性の検証、穂高フィールドステーションにおける土砂・雨水流出、森林生態系、気象、水質、地殻変動の総合観測、および研究領域プロジェクトとして、流域・海岸域における水・熱循環と物質輸送を再現するための結合モデルの開発を行っています。

2. 現在の教員構成

平成25年2月1日現在の教員構成は以下のとおりです。

流砂災害研究領域	教授：藤田正治*1	准教授：竹林洋史*1	助教：宮田秀介*1
都市耐水研究領域	教授：本公募*2	准教授：米山 望*2	
河川防災システム研究領域	教授：中川 一*1	准教授：川池健司*1	助教：張 浩*1 助教：申し出中
沿岸域土砂環境研究領域	教授：平石哲也*1		助教：東 良慶*1
流域圏観測研究領域		准教授：林 泰一*2	助教：水谷英朗*3 准教授：馬場康之*3 准教授：堤 大三*4

勤務地：*1：宇治川オープンラボラトリー、*2：宇治キャンパス、*3：白浜海象観測所、
*4：穂高砂防観測所

----- 共同利用・共同研究拠点について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

Professor, Urban Flood Control

The Research Center for Fluvial and Coastal Disasters (RCFCD) of the Disaster Prevention Research Institute (DPRI), Kyoto University invites applications for a Professor position.

The appointed professor is requested to conduct research related to mitigation of urban disasters by means of numerical simulation and experiment based on structural engineering and geotechnical engineering as well as hydraulic engineering. Research topics cover disasters caused by heavy rainfalls, floods, storm surges, tsunamis and earthquakes.

He/she is also expected to contribute to the Department of Urban Management, Graduate School of Engineering, Kyoto University. The successful applicant is expected to have a Ph.D. or its equivalent and to be proficient in Japanese.

Applicants should prepare the following material:

- (1) Curriculum vitae
- (2) List of publications (divided clearly into refereed journal papers and others)
- (3) Copies of five relevant papers
- (4) Brief summary of research and related contributions (up to two A4 pages)
- (5) Statement of research plans (up to two A4 pages, including figures)
- (6) Recommendation letters or names and contact information of two references (include addresses, fax numbers, and e-mail addresses)

The complete application package must arrive by the deadline of 10 May 2013 at the following address:

Selection Committee for RCFCD Professor, Urban Flood Control
Administrative Office, Uji Campus,
Kyoto University
Uji, Kyoto 611-0011 JAPAN

For inquiry, send email to `apply_staff 'at' dpri.kyoto-u.ac.jp` (replace 'at' with @)

For more information about DPRI, see <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>.

Kyoto University is an equal opportunity employer.